

はじめに 症例はヘバーデン結節により交差箸となるためスプーンで食事をしていたが「箸で食事をしたい」と強く望んでいた。箸で食事ができるようになるまでの介入を報告する。

症例

※当院倫理委員会の承認と本症例より同意を得ている

80代 女性 中等度認知症患者
糖尿病治療のため任意入院

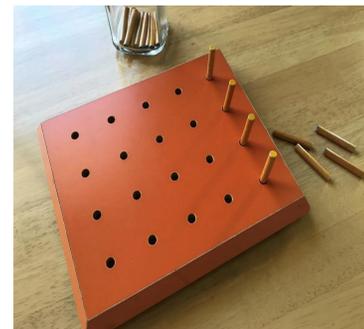
症例

右利き

COPMより、「箸で食べ物を掴んで食べられるようになりたい！」

初期評価

- ・COPM 食事動作に対する重要度 10/10
遂行度・満足度 4-5/10
- ・食事はスプーン使用、刻み食
- ・箸は交差箸で把持困難
- ・自助具箸を使用すれば掴めるが、上手く掴めず繰り返し行うこともあり
- ・自助具箸操作(丸めたセラプラス15個を皿へ移動) 1分20秒
- ・STEF右 31点
- ・ペグボード(小) 5分3秒
- ・両手指ヘバーデン結節(Ⅱ～Ⅴ指)
- ・手掌から末梢にしびれ
- ・表在、深部感覚鈍麻なし
- ・MMT 3-4
- ・HDS-R 17点



目標

自助具箸にて食事ができるようになり、食事動作に対する満足度の向上を図る

経過

1・2w～
開閉練習
基本動作練習

3w～
応用動作練習

4w～
病棟にて実際に
食事場面での練習

自助具箸に対して

こっちのがやりいいね

簡単な動作から応用的な動作へ
段階付けて反復練習を実施



最終評価

- ・COPM 重要度 10/10
遂行度・満足度 4-5→7/10
- ・食事は自助具箸使用、常食
- ・自助具箸にて食べ物を落とさず可能
- ・自助具箸操作 1分20秒→45秒
- ・STEF右 31点→54点
- ・ペグボード(小) 5分3秒→1分31秒

結果

病棟でも
自助具箸の使用を！

満足度向上

自助具箸に対し前向きな発言
リハビリに対する意欲あり

箸操作能力向上

本人の残存能力に
合わせた箸の選択

前より上手にできるよう
なったからよかった